

事務事業名		大船渡駅周辺整備事業			☒ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目				
	施策名	21 活気あふれる商業の振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	03 買物に便利なまちづくり					01	07	01	02	10
根拠法令											
所属	部課名	商工観光部商工観光物産課			☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 平成 年度～) ☒ 期間限定複数年度 【計画期間】 19 年度～ 22 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	商工係	電話内線	0192-27-3111 109							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)					
大船渡駅周辺の賑わいの創出を図るため、平成12年3月に「大船渡駅周辺活性化計画」を策定し、平成14年度には大船渡駅交流広場の整備や、駅西側駐車スペースの整備を行った。 平成15年度からは、東西自由通路整備について検討を行い、その後、まちづくり交付金の活用により、大船渡駅周辺整備事業として、東西連絡歩道橋、駅舎改築、駅西側市有地環境整備を進めており、JR東日本(株)盛岡支社と協議しながら、平成19年度からは基本計画調査、基本設計、実施設計、施行の手順で、事業を進めている。						総投入量 (千円)	事業費内訳	国庫支出金			
								都道府県支出金			
								地方債			
								その他			
								一般財源			
								事業費計(A)		0	
人件費	正規職員従事人数										
	延べ業務時間										
	人件費計(B)		0								
	トータルコスト(A)+(B)		0								

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段 (主な活動)		名称	
前年度実績 (前年度に行った主な活動)		単位	
地元関係者等との懇談会の開催		ア 懇談会の開催回数	
JR盛岡支社との協議		回	
基本設計の着手(委託)		イ 委託契約回数	
回		ウ	
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)		⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
地元関係者等との懇談会の開催		名称	
JR盛岡支社との協議		単位	
詳細設計の着手(委託)、工事委託		カ 大船渡駅利用者数	
人		キ 大船渡駅周辺住民	
人		ク 大船渡駅周辺の商店数	
店		⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		名称	
大船渡駅利用者、大船渡駅周辺の市民や商店街		単位	
サ 利用者数		人	
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		シ	
施設整備により、駅施設等の機能性や利便性の向上により集客が図られ、駅周辺の賑わいの創出につなげる。		ス	
④ 結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
施設を整備することにより、交流・コミュニティの場として、大船渡駅周辺の賑わいの創出が図られる。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
投入量	国庫支出金	千円			3,052	0	10,500	
	都道府県支出金	千円						35,700
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	0					2,566
	事業費計 (A)	千円	0	0	3,052	0	10,500	38,266
	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
	延べ業務時間	時間	80	80	80	80	100	150
	人件費計 (B)	千円	320	320	320	320	400	600
	トータルコスト(A)+(B)	千円	320	320	3,372	320	10,900	38,866
⑤活動指標	ア	回	0	2	2	1	1	1
	イ	回	0	0	1	0	1	2
	ウ							
⑥対象指標	カ	人	29,000	26,000	26,000	25,000	20,000	18,000
	キ	人	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
	ク	店	40	40	40	34	31	31
⑦成果指標	サ	人	-	-	-	-	-	-
	シ							
	ス							

事務事業ID	1137	事務事業名	大船渡駅周辺整備事業
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 中心市街地のひとつである大船渡駅周辺における交流・コミュニティの場を形成し、賑わいの創出を図るため、平成11年度に「大船渡駅周辺活性化計画」、平成17年度に「大船渡港湾周辺地区都市再生整備計画」を策定し、その事業の展開を図っている。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ JR大船渡駅は老朽化が進み、駅前の商店街においても、空き店舗・空き地化により賑わいの喪失が懸念される状況が続いている。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 地元や関係団体等から、計画及び事業の推進について要望が出されている。			

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] 大船渡市総合発展計画に掲げる施策に即した事業である。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] 大船渡駅周辺の交流人口増加による賑わい・コミュニティの活性化を目指すものであり、必要な事業である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] 当市の玄関口である大船渡駅周辺の整備であり、対象・意図は妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由] 東西自由通路、都市施設の整備についての詳細は、JRと協議を進めており、また、懇談会等の開催により、地元関係者等からの意見も聴取している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] JR大船渡駅は老朽化しており、東西の連絡も線路を通るなど、危険性が高いため、事業の廃止はできない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] 類似事業がない。 ☒ 他に手段がない ⇒ [理由]
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 事業費については、必要とされる額を算定しており、削減の余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 事業の推進に当たり、今後さらに職員の専任が求められていくことが予想され、削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] 施設所有者であるJRに対しては、種々の協力を求めなければならず、相応の負担も依頼することとなる。

事務事業ID	1137	事務事業名	大船渡駅周辺整備事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 平成20年度に繰越となった基本設計は21年度に完了した。今後は、実施設計等に着手し、22年度の完工を目指す。 東西自由通路、都市施設の整備については、今後も地元関係者等との協議を進めながら事業を展開し、成果の向上に努める。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 平成21年度、基本設計、実施設計に着手する。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者 商工観光物産課長

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 事業の意図等を的確に把握しており、適切な評価となっている。																					
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 22年度に実施設計を行い、工事着手する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
--